

環境配慮したラベルのティーバッグ

「お茶高のお茶」

お茶の水女子大付属高校（文京区大塚二）の文化祭実行委員会は、環境に配慮した紙をラベルにしたティーバッグ「お茶高のお茶」を作った。倫理的、道徳的という意味の英語「エシカル」をテーマに十六、十七日に開く文化祭「輝鏡祭」の看板商品として販売し、収益の一部を東日本大震災の復興支援に充てる。

お茶大食物学科の公認サークル「Ochhas（オチヤス）」が、鹿児島市の茶製造販売会社「下堂園」と二〇〇六年に共同開発

収益一部、震災復興へ

高付大茶お
売販すあ、うよき

したお茶を使い、実行委員の二年生三人がパッケージやラベルをデザインした。

ラベルに使ったのが、紙の材料となる木を伐採後に植樹するなど環境に配慮した紙。これで「お茶高のお茶」は国際機関「森林管理協議会（FSC）」の認証を受けた。

ゆずミント緑茶とハーブ&ほうじ茶の二種類。価格は一箱四パック入りで二百五十円。うち五十円分を、東日本大震災復興支援財団の「まなべる基金」に寄付する。計九百箱を用意した。

「お茶高のお茶」の商品化で顧問を務める葭内ありさ教諭は「エシカルな商品でチャリティーにもなり、さらにおいしい」と話す。輝鏡祭は「招待チケット制」だが、高校生以下は学生証などの提示で入場できる。

（中村真暁）



お茶の水女子大付属高校の生徒が作ったティーバッグ＝同校提供